

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 愛知厚生年金会館
事務局 〒464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 竹内真三

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を
Share Rotary —— Serve People

1983～84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

No.27 (1983～1984)

第71回例会 昭和59年1月10日(火) 晴

◇ “君が代” “我等の生業”

◇ 乾杯

水野(民)前会長

◇ 出席報告

会員 52(51)名 出席 48名

出席率 94.12%

◇ 前回 12月27日(修正出席率) 100%
make up

古川君(12/30港), 浜口君(12/28名北), 橋本君(12/31守山), 加藤(正)君(12/28名北), 加藤(保)君(12/29瑞穂), 河合君(12/28名北), 小池君(12/23北), 宮尾君(12/28名北), 大口君(12/23北), 成田君(12/28名北), 大谷君(12/28名北), 菅原君(12/21南), 谷口君(12/29西)

◇ ビジター紹介 10名

◇ 誕生日祝福

河合君(1/2), 菊池君(1/2), 松藤君(1/2), 杉山君(1/2), 鈴木(猛)夫人(1/2), 石田夫人(1/4), 橋本夫人(1/9), 加藤(敏)君(1/16), 鈴木(正)君(1/16)

◇ ニコボックス

水野(民)君(P&S, ボウリング共に盛況ありがとうございます。又13日午前6時30分, NHKで“豚とボウリング”が放映されます), 古川君(新年おめでとうございます), 竹内君(新年明けましておめでとう), 加藤(大)君(明けましておめでとう), 松居君(お年賀たくさん頂きながら失礼いたしました, 又今年初の例会にあたり), 谷口君(新年明けましておめでとうございます), 秋山君(本日スピーカーの紹介させていただきます), 成田君(新年明けましておめでとうございます, 今年もよろしく), 大口君(新年おめでとうございます), 橋本君(天理高校ラグビー全国優勝を祝って)

◇ 三輪幹事報告

1. スケルトンRI会長が来日され, 1月24日(木), 名古屋RCにおいてインターシティミーティングが開かれますので参加希望者は事務局まで御連絡下さい。
(参加費は10,000円です)

2. ロータリーの友1月号が届いておりますのでお持ち帰り下さい。

◇ 菊池社会奉仕委員長報告

昨年秋の交通安全運動には御協力頂きましてありがとうございました。12月27日の慰問の際には千種警察よりお礼のことは, 又1月5日には感謝状を頂きましたのでここに披露し報告とさせていただきます。

◇ 竹内会長挨拶

明けましておめでとうございます。甲子(きのえね)の新春の御気遣は如何でしょうか。“一年の計は元旦にあり”とかで政治, 経済, 社会, その他いろいろと華やかに報ぜられております。

何れに致しましても平和で無事な一年でありますよう念ずるばかりであります。

さて, 『干支』が何故『えと』と読めるのかその淵源は『兄弟』の意だそうです。

次に10干(幹)12支(枝)のことでありますが申すまでもなく10干の方は“甲乙丙丁戊……”で表わされるものですが, 序数法と申しますか, 10進法といいますか, 物を数えるのに両指を用いたことに由来するといわれており, 一方の12支の方は太陽とか月の回り方より生れたものといわれ, 一年に月の満ち欠けが12回あることを基礎にして古く紀元前4世紀秦の始皇帝いやもっとそれ以前からあったとされ, 特に農暦といって農耕の大切な目安となったのであります。

この10干と12支を順列に組合せると60の数の順序を示すことができ, 最初の『甲子』が60年経つと又『甲子』となって還暦となる訳であります。

10干の「甲」といい12支の「子」といいそれぞれ初めですので, 特に物事“萬の初め”

として心を fresh にして、又期待と気持ちの引き締まる新年としてお互に賀状やら賀詞を交換されたことであろうと思っております。

ただし『甲子』はネズミとは何も関係のないことですが、何でも縁起をかつぐことの好きな人間共がネズミの多産で繁殖力の旺盛なところにアヤかって今年は豊穰の年とか好景気になるとか言っているようです。普段は“病原菌の媒介者だのドブ鼠野郎”とか“鼠根性”とか散々です。辞書を引いても“鼠米”とか“鼠返し”とか毛嫌いされる表現ばかりです。精々、“鼠小僧次郎吉”辺りがまあまあでしょう。ラッチ、マウス等医用動物として役立っていることはすっかり忘れられています。だのに一体全体今年はどうなってるんだい急に持ち上げたりなんぞしてと人間様の得手勝手ぶりにネズミの方で目を丸くしているに違いありません。

今年一年、皆様が健康で過ごせることを願って会長挨拶とさせていただきます。

◇講演

“三河漫才”

(紹介者 竹内君)

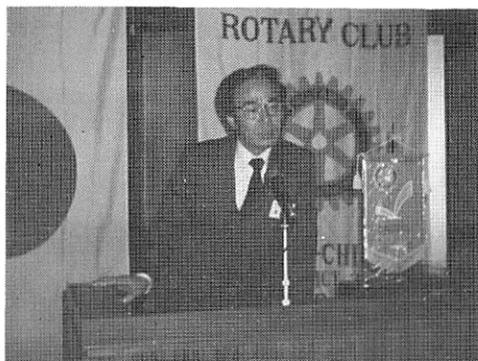


新年を祝い行われた三河漫才

“社会部は何を見るか”

朝日新聞 社会部長

谷 久光氏 (紹介者 秋山君)



社会部の対象は森羅万象、いつどこが現場になるかわかりません。それだけに現場主義に徹することが大事です。私が東京社会部でデスクだった時の話ですが、夕方、ラッシュ時の山手線の駅で盲人がホームから転落し、

若い保母さんが飛びおりて進入して来る電車の直前で救出したことがあります。国鉄クラブからの原稿は、ラッシュの足何万人に影響した、という10行ぐらいのものでした。それを電話で受けた遊軍記者が、ラッシュのホームなら若い男のサラリーマンや駅員も見ていたはずだ、すべて他人は他人という大都会のぞっとする断面を書く、と現場へ出かけ丹念に取材してヒューマンドキュメントに仕立て朝刊社会面のトップを飾りました。他紙はベタ(1段)記事でした。

社会部記者は、センスをとぎすまし、いろいろな分野の勉強も怠らないことで、同じひとつの事象でも事実として記事になるとき全く異った座標軸での仕立てが可能になる。そういう眼力によって事実の顔が変わり得る面白さとこわさに直面しているといえます。

最近の社会部記事の潮流として顕著なことは、背景分析報道にウエイトが置かれるようになって来たということです。起きた事象の原因や背景に肉迫し、水面下の動きをえぐり出す必要に迫られているわけです。その理由はまず、社会生活が複雑化して来たからです。また、さまざまな組織が巨大化し高密度化して、ものごとのひずみ、ゆがみもひと筋なわけでははぐれなくなった、さらに機密性も高まっているということもあります。第二には個人の価値観が多様化したことによります。例えば預かった子がタメ池で水死して訴訟になった隣人訴訟の賛否をめぐる突発的社会現象、戸塚ヨットスクールのあり方についての甲論乙ばく、あるいは事件関係者を実名にするか仮名にするか、社会正義と人権、プライバシーとの均衡への配慮など、論議を尽くして記事にするケースがふえて来ました。

こうした背景分析報道のなかでもきわ立っている潮流のひとつは調査報道です。当局の発表によらない、新聞社独自の責任において朝日新聞社の調べによれば…という形で報道される記事です。ワシントンポスト紙がニクソンを失脚させた例もそれですが、情報の入手、裏付け取材とも大変な苦勞を重ねて構造悪を追及する記事です。中央官界の税金ムダ食いを衝いた「公費天国」キャンペーン、土建業界の密室性を追及した「談合」キャンペーン、地元では54年知事選の愛知県庁ぐるみの企業献金シフトの暴露、一光石油事件などがあります。

事実を正確に報道するための模索と努力を今後も続け、時代の証人としての社会部の姿勢をきちんと維持していかなければならないと思っています。

◇次回例会(1月17日)

講演 “遊びと文化”

中日新聞論説委員

中部女子短期大学助教授 加藤鎮司氏

(紹介者 鈴木(猛)君)

◇次々回例会(1月24日)

講演 “私の仕事(設計事務所の近況)”

会員 松藤 国弘 氏